

NPO 法人エコライフはまつ様  
寄贈していただいた浜松の皆様

2018年3月12日  
青年海外協力隊 2016年度2次隊

栄養士 木原 悠希  
木原 悠希

この度は、楽器の寄贈をしていただきありがとうございます。

2016年11月より、マラウイ南部のマチンガ県リウオンデという町にあるマチンガ県立病院で活動している木原悠希と申します。先月、無事に楽器が届きました。10年を超える貴法人の取り組みに関われることを嬉しく思います。寄贈された楽器の現地人自身による有効利用ができるように、また子ども達にとって楽器がより身近なものになるように、現地 JOCV と共に活用していきたいと思ひます。

お礼と合わせて、報告をさせていただきます。

### 【マラウイ共和国について】

マラウイ、と聞いてどこに位置する国かわかりますか？タンザニア、ザンビア、モザンビークの3ヶ国に囲まれたアフリカの小さな内陸国（日本の約3分の1）です。国土の5分の1を占めるマラウイ湖の他、リウオンデ、ニイカ、カスグなどに国立公園があり、野生動物の生活を見ることができます。またマラウイ湖と共にチョンゴニロックアートという壁画が世界遺産登録されているなど、小さいながらも見所はたくさんあります。

雨季と乾季があり、雨季になると緑が大地に広がり農作物も実る反面、川の増水などによって道が通行できなくなるなど、生活に支障をきたすこともあります。電気や水道のない地域も多く、またあっても停電や断水が頻発しています。

人々は農業主体の生活をしています。主食であるメイズ（とうもろこし）の栽培のほか、野菜、タバコなど栽培しています。



### リウオンデにいるカバ



### 農家さんと一面のメイズ



### マラウイ湖と生活する人々



受領先のンサナマは、首都リロングウェから車で5時間の南部の地方町です。アスファルトの道路に面している立地から、比較的物流もあります。日曜日にはマーケットが開かれ、人と物が集まります。またモザンビーク国境へと続く列車が通る町で、汽笛の音が毎日聞こえます。線路に柵はなく、人々が歩いたりすることもあります。ヤギの放牧や鶏の放し飼いをされていて、外に出れば家畜と会います。穏やかな時間の流れるすてきな町です。

線路 ヤギ 道 柵はありません。



野菜売り場



道ギリギリまでメイズが植わっています。



#### 【受領先・ンサナマ教師研修センターについて】

マラウイには、教師研修センターという、地域ごとに学校を管轄する教育事務所があります。管轄校をまわり学校運営への指導・助言をしたり、生徒数や試験結果をまとめたりしています。教員研修も積極的に行っています。ンサナマ教師研修センターでは小学校15校、中高等学校1校を統括し児童生徒は約12000人、教員は約200人を超えます(2018年2月現在)。また、青少年活動という職種で協力隊員が同センターにて学校行事など特別活動の普及をしています。

#### 【活動状況】

今回寄贈いただいた鍵盤ハーモニカ・リコーダーは管理方法や使い方を現地協力隊員より教員に研修した後、地域の小学校に配布予定です。日頃の音楽活動で活用されるよう準備を進めています。またカスタネットはンサナマ小学校の音楽クラブで使用していきたいと考えています。音楽クラブの子どもたちは、放課後はもちろん、土日に練習しに来るほど演奏することを楽しんでいます。また、ただ音を出すだけでなく上手く演奏することを目標にしているようです。現地協力隊員は、こちらからやらせる活動ではなく、子どもたちの「やりたい!上手になりたい!」という気持ちを大切にしています。彼も私も「子どもたちの中から、音楽家が育ってくれたら嬉しい!」という気持ちでクラブ活動の幅が広がればと考えています。

寄贈していただいた楽器を通して、地域の教育活動の発展と子どもたちの豊かな経験のため、現地職員と協力隊員がともに尽力します。そしてマラウイの子どもたちと寄贈していただいた浜松の皆様との関係が深まることを願っています。この度は、本当にありがとうございました。

受領者のピーリ初等教育アドバイザー



ンサナマ小学校 音楽クラブメンバーと現地協力隊員

